

春日部福音自由教会 2020年4月26日 11:00 同時配信礼拝 中央会堂
聖書 ヨハネの福音書 20章 19節～23節
説教 『平安がありますように！』 小野信一牧師

おはようございます。聞こえますでしょうか？ 2020年4月26日、日曜日の春日部福音自由教会の同時配信礼拝、ライブ配信礼拝をささげています。先週から礼拝堂に集まって礼拝をするのではなく、それぞれの場所に留まって礼拝をささげる同時配信礼拝がスタートしました。どれだけの方が、顔の見えないところで礼拝をささげることが出来たでしょうか、インターネット YouTube で見る事が出来た方、また出来なかった方がどれだけいらっしゃるのか、その把握に努めたいと願い一週間を過ごして、今日日曜日に至っています。

今 81 件の視聴がなされているそうです。そこには複数で聴いている方もいらっしゃるでしょう。先週の 4 月 19 日は、メールを送った時点では 59 名でしたが、昨日の土曜日の時点で 79 名、そして、夜の時点までで 82 名の方が家で礼拝をささげられた、(これは YouTube の方もありますし、他の方法の方も含めてですが)ということが分かって参りました。皆さんに少なくとも一つの方法で、共に礼拝出来る方法をお届けしたいと願いながら今過ごしております。もしもまだ届いていない方がおられるならば、是非教えていただきたいと思いますか、助け合っていければと思います。

I 平和、あなたがたに

今日の御言葉は、復活されたイエス様の御言葉です。「平安があなたがたにあるように」、平和、あなたがたに、というこのイエス様の御言葉を今日私たちはここで聞きます。

もう一度お祈りをささげましょう。

天の父なる神様。今私たちはあなたの御前に出しております。神様、目には見えないけれども共にいてくださる、天地の造り主、私たちの造り主である全能の神の前に出て、今それぞれ場所は違いますが、あなたの前に集まっております。今礼拝をささげる神の民を祝福してください。今聖書の御言葉が朗読されました。復活した主イエスキリストのみ言葉によって、今日私たちにお語りください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン

「平安あなたがたに」「平和あなたがたに」と言われた主イエス様の御言葉を、今日私たちはここで聞いています。それぞれの場所にいながら同じ聖書を開いて、聖書が朗読されるのを聞き、「平安があなたがたにあるように」と、今日もイエス様が言ってくださる、その御言葉を私たちは今聞きます。

復活の日、日曜日の夕方、そのイエス様の言葉を聞いた弟子たちは、鍵をかけて閉じ

こもっていました。何故でしょうか。恐れゆえに、鍵がかけられていたと聖書に書かれています。恐れゆえにです。恐れを動機として鍵をかけていた。ユダヤ人たちを恐れて、戸に鍵がかけられていた。ユダヤ人からここにいることを見つけられるのを恐れて、見られることを避けて、鍵を閉めています。その中に、イエス様が来ました。立ちました。彼らの真ん中に立ち、そしてこう言われたと聖書に書かれています。イエス様は来たのです。鍵をかけて、閉じて、人々から見つからないように、人々の手がここまで及ばないように閉じこもっているその閉ざされた部屋の中に、イエス様は来られました。そして、そこに細々と集まっていた弟子たちの真ん中に立ったのです。それが、イエス様がしてくださったこと、弟子たちが経験したことです。

今日私たちは同じことを経験したいと思っています。

今日は爽やかな春の日差しの中で、でも家の中に閉じこもって過ごさなければならない、人と会わないようにしなければならない、という状況の中にあります。私たちはそれぞれ一人ずつ部屋にいる今この時も、そして家族だけにいるこの時も。人に会わないように、触れないようにしながら、病気を移さないように、また移されないように気をつけて過ごしている、それぞれの家の中、今いる場所、その部屋の中にイエス様が来て立ってくださいます。そして、そこに、真ん中に立って、イエス様が言うてくださるのです。「平安があなたがたにあるように」。

今日私たちは、お互いの顔を見ることができずに、お互いの声を聞くことができずに、礼拝を一緒にささげています。この場所のこの様子、講壇がありまして、十字架があつて、お花があります。この様子が見えているでしょうか。そして今声が聞こえているでしょうか。届いているならば感謝です。皆さんが今いる場所に、今この時に、同時に届けたいと思いつながらここに立っております。同時配信のために奉仕に当たってくれている兄弟たちがいます。その奉仕に感謝します。週ごとに一つ一つ改善を重ねながら、今日はカメラが新しくなって、もしかしたら映りが良くなっているでしょうか、どうでしょう。改善を重ねて取り組みながら頑張ってくれています。

戻りますが、私たちは今、お互いの顔を見ることができずに、それぞれの所にいます。でも一緒に神の前に出ています。私たちは、ユダヤ人に見つかって捕まることが怖いから閉じこもっているのではありませんが、別な理由で、家族だけで、また一人で家に中に入ります。そういう私たちの今いる場所に、今あなたがいる場所に、イエス様が来て、立ってください。皆さんの家に、部屋に、もしかしたら車の中かもしれません、もしかしたら路上かもしれません。皆さんの真ん中に、家族でいるならばその家族がいるその真ん中に、イエス様が立たれます。今日、イエス様が来て立っていてくださる。見えない客人として、イエス様は皆さんの食卓にもおられます。そしてイエス様が言われます。「平安があなたがたにあるように」。平和、あなたがたに。シャローム、ピース、平和あれ。そう言ってくださいます。

私たちは今、様々な恐れを抱えています。私たちが抱えている恐れは、共通の恐れであり、共通の課題です。そして、その感じ方は一人一人が違うでしょう。今皆さんは何を恐れているでしょう。何をより強く恐れるか、また恐れがやって来た時にどんな反応をするか、それは一人一人違うでしょう。しかし、コロナによって閉じこもる私たちのところに、イエス様が来て「平和、あなたに」といつてくださる、そのことは同じです。皆さん一人一人が、あなたが、不安を感じ、恐れを感じる時、そこにイエス様が来られます。

自分は今このことが不安なのだな、こうなったらどうしよう、怖いなど恐れている、と思うことがあるならば、その不安の中に、その恐れの中に、その状況の中に、イエス様をお迎えしたのだ、そう考えてみましょう。一人一人にとってそれは何でしょうか。大人の皆さんも、中高生のみんなも、高齢の方たちも、今私の不安、僕の恐れ、一人一人、それは何でしょうか。こうなったら怖いな、置かれた状況によってそれぞれあると思います。この新型コロナウイルスの前から、もうすでに病気と闘っている人もいます。人生のいろんな課題にぶつかっている人もいます。それに加えてみんなを覆う不安が今来ている。一人一人にとっては何が恐れでしょう。そこにイエス様が来られる。そのことを今覚え、味わい、経験したいと思うのです。

今この礼拝堂の会衆席にいるはずの皆さんがそれぞれ家にいる。それぞれの場所にいる。離れていますけれども、今ここで一緒に、神様の前に一緒にいて、イエス様が私の所にも来てくださった。今この恐れの中にいる私にも、「平安あなたにあれ、平和あなたがたに」と言ってくくださった。それを今日私たちは味わいます。弟子たちは、あの日イエス様はもう死んでしまったと思っていました。しかし朝、女性たちが墓に行くと、仲間から聞きました。イエス様のお体がお墓にはなかったという知らせ、復活の知らせはもう聞いているのです。でもまだ、恐れています。そこに、イエス様が来られた。来て真ん中に立ち、こう言われた。手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。彼らは主を見たのです。そして喜んだのです。イエス様がいる、手と足と体をもってそこにいてくださるということは、イエス様は死んでしまったからもう駄目だ、終わったのだという絶望をひっくり返す決定的な出来事でした。イエス様はそこに立って、彼らの恐れ、失望感を拭い取って下さいました。

私たちにとっても同じです。なお私たちには不安があり、恐れがあるでしょう。そしてこのコロナは、そう簡単には終わらない、すぐには拭い去れないもののようです。いろんなことを考えます。状況はどうなるのか、この日本の国はどうなるか、私たちの街の病院はこれからどうなるのか、そういうことが見えないし、分からないし、答えがありません。でもその中で、この状況の中にイエス様が来てくださっている。私の部屋に、私たちの家族の真ん中に、そして、私が今週も懸命に仕事をする仕事場で、一人一人のいる場所、テレワークであれ、医療の現場であれ、一人一人懸命に仕事をするその仕事場にも、イエス様が

立ってくださる。それがあれば、それが分かれば平安が来ます。希望が湧いてきます。困難な状況がすぐにはなくならないとしても平安と希望がそこから湧いてくる。どんなことが起ころうとも、イエス様を見続けて、だから力を頂き続けて、自分のなすべきことをし続けるその勇気が湧いてくるでしょう。それは精一杯閉じこもることであるかもしれませんが、精一杯に自分の仕事をすることでもあるでしょう。特に恐れと危険と隣り合わせの中でその仕事場に出ていくときに、イエス様があなたのそばに来て、あなたの隣に立ってくださるのを忘れないでください。イエス様が現れてくださった。来てくださった。立ってくださる。そのことが、私たちに平安をもたらします。

「平安がありますように。」これはイエス様が言ってくださった言葉です。今日の聖書の箇所、イエス様は 2 度繰り返して言っています。3 度目もあります。もう少し後の 24,25,26 節のところ、最初の夜一緒にいなかった弟子トマスが、一週間後には一緒にいたというその時、イエス様はもう一回真ん中に立って「平安があなたがたにあるように」と言ってくださいました。3 度同じことを重ねて、「平安あれ」「平安あれ」「平安あれ」と言い続けてくださいました。今日私たちもイエス様の言葉を聞きます。イエス様は私たちが置かれている状況をご存じです。世界の状況もご存じです。その中で日本にいる私たちにも「わたしはあなたがたのことを分かっている、平安があなたがたにあるように」と言ってくださるのです。今日私たちは、イエス様の声を、「平安あれ」と言う声を聞いています。このみ言葉を胸に刻んで、今日から月曜日、火曜日、一週間は歩んでいきましょう。

II 平和を祈る挨拶

このイエス様の言葉を聞いた者として、私たちは何をしたらよいのか。今日はそのことについて、二つのことを話したいと思います。

一つは、このコロナ禍の中で、平安を祈る挨拶をしましょうということです。お互いに、「平安があなたがたにありますように」とイエス様が言ってくださったように、私たちも伝え合いましょう。私から皆さんへ、そして皆さんもお互いからお互いへ、あなたがたに、皆さんに、「皆さんの家族に平安がありますように」と祈りましょう。今私たちは顔を見て挨拶ができない、触れることができない。でも別な形もあります。電話もできます。ハガキもいいでしょう。メールもいいでしょう。LINE とか ZOOM とか、などなど、お互いの平安を祈る思いと祈りを伝え合いましょう。

イエス様の「平安あれ」という言葉を聞いた者として、今週しましょうということが二つあります。一つは今言ったことですね。このコロナ問題の中にあって、互いに祈る挨拶をしましょうということです。中高生も是非してください。仲間に、教会の仲間に対して、学校の友達に対して、LINE でもいいし、紙でもいいでしょう。たまにはハガキを書いて送るのもいいかもしれません。「元気にしてる?」「学校始まったのか?」「僕は全然学校行ってないよ」「宿題やってるよー」とか、「やってないよー」とか、いろんな人がいるでしょうけれども、

「そっちはどう？」って互いに平安を祈り、尋ね合う挨拶をしましょう。安否を取り合うって、聖書ではそういう言い方をしますが、「平安ですか、どうですか」とお互いに問いかけるということです。「お陰様で元気にしています、そちらはどうですか？」心配なことがあったら、それを伝えましょう。「お祈りしてください」とお願いしましょう。そうすると、「分かりました、お祈りしていますよ」と返事をもらえるでしょう。互いに励まし合ってこの時を進みましょう。

Ⅲ 赦し合う

さてもう一つ、イエス様の「平安あれ」という言葉を聞いた私たちがすべきことが、今日の聖書に書いてあります。それは 23 節です。このコロナ問題の中で、互いを赦し合うということです。みんなイライラしています。どうですか？ 常じゃないでしょうけれど、時々イライラするのはほぼ全員なんじゃないかと思います。皆不安を抱えています。いろいろな状況を見て、身近な状況、日本の政治、ニュースに出てくること、これじゃやばいんじゃないか、とか、もっと何とかしてくれないと、とか、いったい誰がやるべきことをやってないんだろう、どうなってんだ、と、多分みんながみんな思うことがある。そんな状況の中にいます。私たちは、お互いを責めようと思うならばいくらでもできます。特に親しい人、身近な人、家族の間では、相手を責めようと思うなら、その材料はいくらでもある。いつもある。なぜなら、よく見ているからです。一緒に生活していつも知っている、見て、知っているからです。例えば教会の牧師であっても、学校の教師であっても、外では立派なことを言っているけれど、家ではこうだよ、と家族は知っているわけです。例えば中高生で生徒会長をしている生徒がいたとします。学校ではその子は尊敬されているかもしれませんが。でも家ではこうだよってことを、家族は知っているわけです。家にいる時間が増えると、お互いに、もっと見えてくる。ですから、見つけようと思えば、その人を責める材料はいくらでも見つかります。しようと思えばいくらでもできる。でもそれをしない、それをしても意味がない、責めても何もならないのです。勿論、責め、戒め、戒められて、気が付いて改めることができるなら、それは良いことでしょう。でも一方的に責めるだけとか、互いに責め合うということだけでは意味がないでしょう。イエス様は、弟子たちに息を吹きかけて言われました。「聖霊を受けよ」「あなたがたが誰かの罪を赦すなら、その人たちの罪は赦されることになる。赦されたことになるのだ、一方、もしあなたがたが赦さないなら、その罪は残る」。私たちは互いに弱いところがあるものです。それぞれに一人一人賜物もあります。良いところがある、強いところがある。でもそれぞれ、どの人にも欠けがある。弱点もある。その強さと弱さは、多くの場合、コインの裏表のようなものでしょう。「平安あれ」と、イエス様の言葉を聞いた私たちが、このコロナ問題の中で、互いを赦し合うことを、イエス様は望んでおられます。私たちは、赦しましょう。互いを赦し合いましょ。赦してもらって、一緒にやっていきましょう。

イエス様は、21 節で、「わたしもあなたを遣わします。」と言われました。イエス様がこの

世に遣わそうとしているのは、赦すことのできる人たちです。すなわち、キリストによって赦されたということを知って、イエスが十字架上で、「父よ。彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか分からないのです」と祈って下さった、それは私のためでもあった、ということを知って、赦された者として赦す人たちです。そういう人たちを、神は世界に遣わしたいと願っておられます。新型コロナ問題の中にあつて、私たちは問われています。互いに愛し合っているか、互いに赦し合っているか、互いに助け合っているか、と。そのことが世界の人たちに、日本の人たちに、私たちに問われています。「赦しなさい」という、イエス様の声を私たちは聞いています。恐れや、苛立ちや、不安、怒りがぐるぐる巻き起ってくるこの心の中と、この状況の中で、赦す人として、一日一日を歩みましょう。赦すことが出来ない自分であるということに向き合つて、「赦すことの出来る人に神様私を変えてください」と祈りながら歩みましょう。人を責めないで、自分に出来ることを精一杯して、今週 1 週間も互いの命を守りましょう。

IV 祈り

天の父なる神様。今日も私たちは離れたところで、互いの顔を見ることなく、しかし御前に共に集まり、礼拝をささげております。あなたはひとりひとりを見ておられ、一つ一つの家族を見ておられ、今、この時一人一人がいる場所に、一つ一つの家族がいる場所に、そこに来ていてくださいます。そこに立っておられます。イエス様、共にいてください。恐れのある私たちに平安をお与えください。このただ中で、イエス様が言うてくださる「平安があなたがたにあるように」という声を聞きます。今週もどんな状況になるか分かりません。しかし、その声とともに、そのイエス様のお心と、隣に立つてくださるイエス様の臨在とともに、今週 1 週間に、今日出発します。精一杯閉じこもるときに、精一杯仕事をするために出て行くときに、主よ、共にいてください。一人一人の命を守り支えてください。私たちの身の回りにおいて、またこの国全体において、この地球全体において、命が守られますように。そのために働く人たちを日々支え、力を与えてくださいますように。家々にいる兄弟姉妹たちを祝福してください。主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。アーメン